



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



研究のより活性化を目指して

歯学部長 宮崎 隆

10月8日に、iPS細胞の開発者である京都大学の山中伸弥教授が今年のノーベル医学・生理学賞を受賞することが発表され、日本中が沸きました。山中教授は、高校時代は柔道、大学時代はラグビーに熱中し、医師や研究者としてもいくつもの挫折を乗り越えながら、最終的に患者さんに貢献したい気持ちと夢を追い続けて栄冠を手に入れたということで、日本人に希望と元気を与えてくれました。



本学においては、大学全体で研究の活性化に取り組んでいます。毎月、教育研究等奨励推進委員会を開催し、理事長、学長、各学部長ほかが出席して、研究ならびに教育プロジェクトを含めて、大型競争的資金への申請を検討しています。また、共同研究促進会議を開催して、学内外の共同研究プロジェクトや大型研究機器の導入計画等を審議しています。

歯学部においては、研究活動委員会(上條竜太郎委員長)が中心になり、研究プロジェクトの申請や、共同研究機器の導入、科学研究費の申請支援等を行っています。教育改革に忙しい10年間でしたが、幸いなことに歯学部の研究活動は年々活発になっています。とりわけ、優れた歯学研究を通じて歯科医療の発展と患者の健康回復に貢献したいと思い、学部の力を合わせて重点研究に取り組んできました。

平成17年からの文部科学省ハイテクリサーチセンター整備事業を皮切りに、現在、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として、「分子的理解に基づいた口腔癌の先端的研究(口腔癌包括研究センター)」「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点形成(大学院歯学研究科)」「次世代型顎口腔再生医療の研究開発拠点形成(顎口腔組織再生医学研究センター)」の3つの研究プロジェクト、ならびに日本私立学校振興・共催事業団の学術研究振興資金「唾液腺機能障害の分子機構解明と機能回復を目指した先端的研究」について、学部の総力をあげて重点的に取り組んでいます。

研究者が個人レベルで申請する文部科学省の科学研究費については、平成24年度は新規と継続を合わせて約100件が採択されました。この採択件数は10年前に比べて1.5倍に増えています。教員数

は増えていないので、各教員が頑張っている証だと思います。

大学全体の研究機器についても、この10年間で、最新の機器が導入され、研究環境は著しく向上しています。教員に加えて、本歯学部だよりでも、たびたび紹介されているように、大学院生はもとより学部学生の研究発表や、各種学会等での受賞も日常的になっています。今後、山中教授の快挙を励みにして、本歯学部の若い教員や大学院生が、さらなる研鑽を積み研究がますます活性化することを期待しています。

昭和大学ホームカミングデーが開催されました

口腔生化学講座 上條 竜太郎

第5回昭和大学ホームカミングデーが10月7日(日)、旗の台50年記念館において、旗が丘祭・いぶき祭に合わせて開催されました。卒後50年の医学部30回生、卒後25年の医学部55回生、歯学部5回生、薬学部18回生が招待され、約180名が参加しました。式典は、昭和大学管弦楽団の歓迎演奏に始まり、片桐敬学長、小口勝司理事長、仲保徹保健医療学部同窓会長からのご祝辞を賜った後に、卒業後の社会貢献に対して、ゴールデン表彰(卒後50年)、シルバー表彰(卒後25年)の授与が行われ、各学部の代表者に記念の盾が渡されました。そして招待クラスを代表して、山家忠幸先生と岡松孝男先生(医学部30回生)からご挨拶をいただきました。その後、グリークラブとともに全員で校歌を斉唱した後、応援指導部が卒業生へのエールと題して、演舞を披露してくれました。式典に引き続いて同会場で懇親会、その後も二次会(高輪プリンスホテル)、三次会(品川プリンスホテル)を開催し、約200名の同期生が学部の枠を超えて旧交を深めることとなりました。

最後に、田中一正委員長をはじめとする実行委員会の皆様と、早朝からご準備いただいた総務部総務課の皆様にご心から御礼を申し上げます。



大学院秋季入学式が開催されました

大学院運営委員長 佐藤 裕二

9月1日に大学院歯学研究科の秋季入学試験が行われました。10月2日に旗の台1号館5階会議室で、新大学院生を迎えて、平成24年度昭和大学大学院秋季入学式が執り行われました。歯学研究科は、メインである4月の春季入学では40名と非常に多くの入学者を迎えましたが、秋季は全学部で17名のうち、1名(歯科理工学専攻)と少し寂しい状況でした。緊張した面持ちで新入生を、先輩大学院生や教職員が暖かくサポートしてくれることでしょう。なお、来年度の春季入試は12月8日と2月16日です。さらに多くの大学院生が来てくれることを期待しています。



第48回 ISO/TC106パリ会議に参加しました

歯科理工学部門 玉置 幸道

ISOは国際標準化機構(International Organization for Standardization)の略称で、電気分野を除く工業製品の国際規格を策定するための民間の非政府組織です。ISOの下には192にも及ぶTC(Technical Committee, 専門委員会)があり、TC106は歯科専門委員会です。さらにその下にいくつかの分科会(SC)があり、本学の岡野友宏教授はSC3(歯科用語)で日本代表を務められています。写真は全体会議に向けて、各SCの代表が最終打ち合わせをしているところです。



私は一昨年のリオデジャネイロ会議からSC1(充填・修復材料)の中に分類されている矯正装置のWG13, 14に日本代表として参加しています。現在は矯正用ワイヤーとバネに関するISO規格の制定が諮られています。国際会議であるため会議前に議論される規格書のたたき台(Working Draft)を十分に理解して臨むのですが、毎度のことながらネイティブの激しい議論にはついていくことができずに苦労します。それ

でも出席を重ねていくにつれて挨拶を交わす知り合いも増え、英語が苦手な日本人でも優しく受け入れてくれる彼らの気遣いに甘え、会議中の議論で分からないところは休憩時にレクチャーを受けるなどして理解を深めています。

他に参加したSC8では日本からの提案(implant abutmentの振り疲労試験)が議論されましたが、接合部のネジの破折は振じり力ではないなど反対意見が多く苦戦しています。ISOでは提案に同調する国が少ないと新規業務からはずされるケースも珍しくありません。今回も矯正用ブラケットと歯面との接着を評価する“接着せん断試験法”が審議されましたが、臨床的意義に乏しいとの辛辣なコメントが大半を占め、結局廃案となってしまいました。議論はかなり激しいものがありますが、ひとたび決議がなされて終わってしまうと感情的なしこりなど微塵もないかのようにこやかに談笑しているのが、日本人としてはとても奇異に映ります。来年はソウルでの開催です。

北部病院にマタニティ歯科学級・赤ちゃん歯科学級が開設されました

小児成育歯科学講座 井上 美津子

平成24年3月、昭和大学横浜市北部病院に西棟産科病棟(マタニ



ティハウス)が開棟されました。かねてより、北部病院にて妊婦健康診査・分娩を予定している方々を対象としたマタニティ歯科学級・歯科検診と、出産後の親子を対象とした赤ちゃん歯科学級を実施する計画を検討しておりましたが、9月から実施の運びとなりました。妊娠16週頃にマタニティ歯科学級を受講していただき、早めに歯科検診を受診していただくことで、妊娠期に必要な歯科的知識を得るとともに、自分の口腔内の健康状態や問題点を把握し、必要な処置は妊娠安定期に受けられるようにして妊娠期の口腔の健康をサポートしようというものです。歯科学級は歯科病院の小児歯科が担当し、歯科検診は北部病院歯科室のスタッフと歯科病院小児歯科のスタッフが分担して行います。また、マタニティ歯科学級・歯科検診を受けた方々を対象に、来年からは出産後6~9か月くらいに赤ちゃん歯科学級も実施する予定です。妊婦の口腔の健康は、妊婦自身の口腔と全身の健康に関わるばかりでなく、胎児の発育や出産後の齲蝕原性菌の伝播などにも関連します。歯科学級や歯科検診を受けていただくことで、少しでも安心・快適な妊娠期を過ごすお手伝いができればと考えています。

D1初年時体験実習が実施されました

口腔生理学講座 望月 文子

9月3日(月)～9月21(金)にわたり、平成24年度初年次体験実習が富士吉田校舎で行われました。私は、9月11～12日にかけて、学生の施設・病院等への送り出しと出迎え、ならびに歯学部学生に対する「生活習慣と口腔の健康」という実習を担当しました。

学生は、実習を行う施設・病院毎に集合し、それぞれのバスやタクシーに乗り込み、出発しました。朝は元気に出発



した学生も、夕方、ヘトヘトに疲れ切って帰ってきましたが、皆充実した実習を行ってきた様子で、半ば興奮状態で今日の出来事を話してくれる学生や、医療人としての志を改めて見つめ直した学生もいました。

「生活習慣と口腔の健康」実習は、口腔衛生学講座の渡邊賢礼先生のご指導のもと、口腔病理学講座の山本剛先生と一緒に行いました。本実習は、健康な生活を維持するために、日常生活における生活習慣や口腔機能を理解してもらうことを目的とし、歯磨き圧測定、咀嚼能力テストを行いました。学生は大変興味深そうに実習を行っており、歯磨き圧測定は、自分自身の歯磨き圧だけでなく、被験者への歯磨き圧を測定することで、患者さんに歯磨き指導するときどのくらいの圧力で歯磨きを行えばいいのか、実感してもらいました。

今回の初年次体験実習が、学生一人一人の将来の糧になることを希望します。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 11月 3日(火):推薦・編入入試
- 11月15日(木):創立記念日
- 11月25日(日):歯学部進学説明会
- 12月 1日(土):昭和歯学会例会
- 12月 8日(土):大学院 I 期入試

受賞

広報委員長 井上 富雄

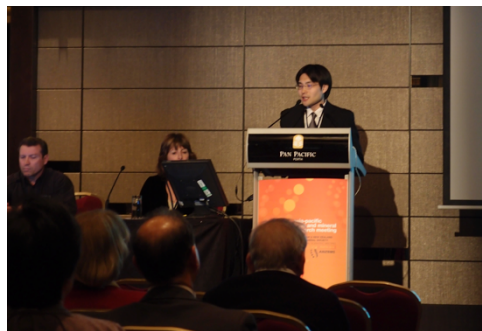
- ・日本歯科理工学会第59回学術講演会発表優秀賞
玉置 幸道(歯科理工学部部門)
堀田 康弘(歯科理工学部部門)
- ・第71回日本矯正歯科学会大会優秀発表賞
山口 徹太郎(歯科矯正学講座)
- ・第42回日本口腔インプラント学会優秀研究発表賞
代田 達夫(顎口腔疾患制御外科学講座)

第1回アジア・太平洋骨代謝学会にて Young Investigator Award を受賞しました

大学院4年(歯周病学専攻) 相澤 怜

9月2日から5日にかけて、オーストラリアのパーズで開催された 1st Asia-Pacific Bone and Mineral Research Meeting with the ANZBMS 22nd Annual Scientific Meeting(第1回アジア・太平洋骨代謝学会—第22回オーストラリア・ニュージーランド骨代謝学会学術大会)に参加して参りました。

今回、7月に開催された第30回日本骨代謝学会学術集会にて ANZBMS 2012 Travel Award を受賞したことから、本学会で発表を行う機会をいただきました。学会の行われたパーズという都市は、西オーストラリア州の州都で、穏やかな気候と美しい景観で有名な都市で、世界一美しく住みやすい街と言われています。学会会場近くにもスワンリバーという有名な大きな川があり、広い公園と埠頭のある大変景色のきれいな場所でした。



会場にはオーストラリアからの参加者が多かったものの、日本、中国や韓国その他、アメリカから

の参加者もあり、国際学会ならではの活気を感じました。本学会では講演会場が1か所のみで、同じ時間に複数の講演が行われるという状況にならないため、参加者が一堂に集まり、集中して講演を聞き、身振りを交えた活発な討議が行われていたのが印象的でした。本学会で私は幸運にも Young Investigator Award を受賞し、口頭発表をさせていただきました。私の発表も多くの先生方に聞いていただき緊張しましたが、大変貴重な経験になりました。このような機会をくださいました歯周病学講座の山本教授、口腔生化学講座の上條教授をはじめ、共同研究者の先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

編集後記 口腔生理学講座 中山 希世美

宮崎学部長も巻頭言で触れられていますように、今月は京都大学の山中伸弥教授のノーベル賞受賞に日本中が沸きました。私も自分の研究に対する姿勢を改めて問い直す日々です。

末筆になりますが、今月もお忙しい中、原稿を執筆下さいました皆様に心より感謝申し上げます。